大会報告

世界トレイル０選手権

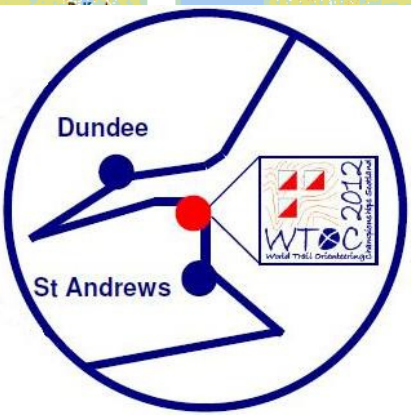
2012 年 6 月 6 日～9 日　英国(スコットランド)・ダンディー

田代雅之

今年も 6 名の日本選手が世界に挑戦したトレイルオリエンテーリングの世界選手権。3 つの個人種目の優勝は、いずれもスウェーデンがさらっていった。

今年の舞台

今年の世界トレイルオリエンテーリング選手権(WTOC)は、英国はスコットランドの南西部、ゴルフで有名なセントアンドリュースの近く、ダンディーという町で行われた。



WTOC2012 の日程
- 6/6 TempO Trophy・開会式
- 6/7 モデルイベント
- 6/8 個人戦 Day1
- 6/9 個人戦 Day2 兼 団体戦・閉会式

TempO Trophy

TempO(テンポ)は、トレイル０のスプリントとも呼ばれ、翌年 2013 年の世界選手権から正式種目になる予定で、今年は公開競技の扱い。トレイル 0 は地図と現地を対応させる正確性を競う競技だが、TempO はその対応時間の速さも競う。コントロール円の描かれた地図の一部が渡され、現地に設置された最大 6 個のフラッグから、地図上の円の中心にあるフラッグはどれかを 3 問続けて答えていくのだが、正解なし(地図上の円の中心にフラッグが置かれていない場合)もある。

上位と日本の成績(各国 3 名　計 62 人)

1	M.WIKSELL(スウェーデン)	220.5 秒
2	G.MICHELOTTI(イタリア)	233.5 秒
3	M.JULLUM(ノルウェー)	268.0 秒
41	山口拓也(浜松 OLC)	541.0 秒
45	木村治雄(入間市 OLC)	576.0 秒
48	小泉辰喜(東京 OLC)	598.5 秒

8 箇所 x3 課題=24 課題の総所要時間
(誤答 1 課題ごとに 30 秒加算)

今回の TempO では独立樹が林立する公園内の広場がメインで、地図上のどの点や○が現地のどの木を表しているかの対応が必要だった。

実際のコース図の一部
独立樹やその間にフラッグが設置
どのフラッグが円の中心かを問う課題

上図現地の様子

日本選手は軒並み苦労したが、優勝したマリット=ウィクセル(スウェーデン)は、上図を含むステーション 1 の 3 課題をわずか 28 秒で正答しており、1 課題 10 秒かかっていない。

開会式

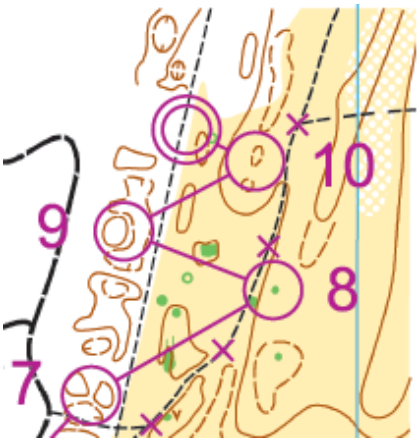
TempO が終わると宿舎へ帰って開会式。今年の宿舎はイベントホールもあわせもっていて、開会式は宿舎と同じ敷地内で行われた。

アジアからの WTOC 参加国は長らく日本だけだったが、昨年中国が初参加(選手 2 名)。そして今年は香港がチームを送ってきた。同じ地域の参加国が増えるのは嬉しいことだ。

開会式で(アジア勢の集合写真)
旨に日の丸の白黒ジャージが日本
それ以外の５名が香港
写真後列左から 3 人目のホーさんは、初出場ながら TempO で 14 位の好成績。彼は 2007 年長崎での全日本トレイル０に来日しており、トップの成績だった。

モデルイベント

翌 6/7 はモデルイベント。翌日からの個人戦、団体戦と同じ会場で、海岸沿いの砂浜と松林のテレイン。

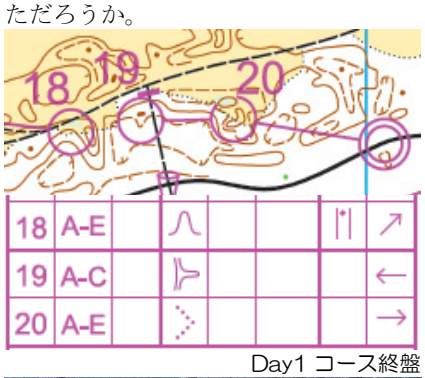


前日の TempO は公園の広場をメインとしたコースだったが、Day1,2 は林の中での戦いとなりそうだった。

Day1

開けて 6/8、Day1。個人戦は 2 日間の総合成績で争われ、その第 1 日目。選手達は会場からスタートまでミニバスで 15 分ほどゆられていく。コースは 20 コントロール+TC(課題を解く速さも競うコントロール)2 課題の 22 点満点。

コンターが描く地形が現地のどこを表しているのか正確につかむ課題が多かったように思うが、選手はどう感じただろうか。



Day1 コース終盤

20 番コントロールフラッグ群

20 番の課題に取り組む木村選手

さて残念なことに、Day1 では 1 番コントロールのフラッグ設置位置と地図表現との関係が適切ではなかったとして提訴が出され、裁定の結果キャンセルとなってしまった(結果 19 コントロール+TC2 課題の 21 点満点)。

コース(左図)とフラッグ配置(右図)

運営側の設定は真ん中のフラッグが正解位置というものだったが、道との関係からフラッグ群はやや右方向へずれて設置されていて、左端のフラッグの方が円の中心に近いとの裁定だった。

Day2

翌 6/9 の最終日は Day2。個人戦の 2 日目と団体戦が行われた。個人戦は 23 コントロール+TC2 課題。

この日は林の中の小径にも積極的に選手を入れての競技となっていた。小径にまで車椅子を入れさせるコースは珍しく、普段林の中へあまり入る機会のない車椅子の選手にとって新鮮だったかも知れないが、移動の苦労がしのばれる。日本の木島選手も「林を堪能している余裕はなかった」と感想を述べていた。

Day2 中盤

コース沿いの小径に車椅子も含め入っていき、課題に取り組む。

この日はパラレルエラーを誘うコントロールが比較的多かったように思う。日本でも良く出される課題だ。

[10 番]位置説明はピークとピークの間。円の外側(北西側)のピークとピークの間に 3 つのフラッグを配置(左図の小さなフラッグマーク)。円の中心は図の○印の部分で、ピークの読み違いを誘っている。

[21 番]コース(左図)
フラッグ配置(右図)
位置説明は北の小凹地。テープ誘導にて右図の破線のエリアは立ち入りが許可されていた。2 個のフラッグが配置され(右図の小さなフラッグマーク)、南のフラッグは地図に描かれないような浅い凹地(浅くくぼんだ部分)に設置されている。小凹地のすぐ北の緑ドット(独立樹)からの距離、自分の立っている位置(×印)がくぼんでいること、南のフラッグのくぼみの大きさ、オープン(図で網掛けになっている部分、実際の地図はカラーなので薄い黄色)の境との位置関係等を正しく把握できれば、正解位置(○印)にフラッグがないことがわかる。

今年の日本の戦績

[個人戦成績 42+TC4=46 点満点]
(Day1:19+TC2、Day2:23+TC2)
点数は TC も含めた正答数
秒数は TC4 課題の解答に要した合計
(誤答 1 課題ごとに 60 秒加算)

オープンクラス(61 名)

1	S.GERDTMAN(SWE)	44 点	118.5 秒
2	V.KYRYCHENKO(UKR)	44 点	115.0 秒
3	S.STOIAN(UKR)	43 点	66.0 秒
25	木村治雄	39 点	130.5 秒
37	小泉辰喜	37 点	110.0 秒
40	山口拓也	37 点	155.0 秒

パラリンピッククラス(36 名)

1	O.JANSSON(SWE)	42 点	138.0 秒
2	P.SEPPA(FIN)	41 点	75.0 秒
3	D.KUCHERENKO	40 点	252.5 秒
17	木島英登	32 点	106.5 秒
25	高柳宣幸	27 点	60.5 秒
33	森　長三	17 点	275.5 秒

[団体戦成績 (23+TC2)x3 人=75 点満点]
16 か国が参加。あらかじめノミネートした 3 名の Day2 成績の合計。TC は個人戦の分はカウントされず、それとは別にこの 3 名は追加で TC を 2 課題実施し、その成績が加算される。

1	フィンランド	72 点	91.0 秒
2	スウェーデン	72 点	148.5 秒
3	クロアチア	71 点	124.5 秒
12	日本	61 点	283.5 秒
	山口	23 点	72.0 秒
	木村	21 点	70.5 秒
	木島	17 点	141.0 秒

残念ながら今年の日本チームの戦果は入賞なしとなった。来年は 7 月にフィンランドの Vuokatti で開催される。再びフット O の世界選手権と同時開催。これまで公開競技だった TempO も正式種目となる予定だ。

個人(オープンクラス、パラリンピッククラス)、団体、TempO の 4 つの金メダルを各国選手が争う。日本チームのこれからの活躍に期待したい。

(田代雅之)